

東京バッハ合唱団 月報

[第577号] 2010年7月

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604
Tel：03-3290-5731 Fax：03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.577

July 2010

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

第104回定期演奏会 <速報>



石橋メモリアルホール
2010年6月6日、午後2時開演

BWV124《イエス 共にあらん》
BWV52《悪しきこの世よ なれを頼まじ》
BWV17《感謝ささげ ほめ歌う者に》
BWV4《キリスト 死につなわれしが》

独唱:(左から)
光野孝子(ソプラノ)
佐々木まり子(アルト)
鏡 貴之(テノール)
新見準平(バス)

管弦楽:東京カンタータ室内管弦楽団

オルガン:草間美也子

合唱:東京バッハ合唱団

指揮:大村恵美子

写真:鈴木真氏撮影

日本語による演奏に好感

(O.T.)

貴合唱団の演奏を聴くのは初めてでした。多少覚悟していた違和感や居心地の悪さは全くなく、むしろ穏やかな気持ちに浸ることができました。客席を含めて共感と親和感に満たされていたからでしょうか。

演奏については、オケ、ソリストは申し分なく立派な演奏でした。第52番ではホルンの妙技も堪能しコンチェルトを1曲おまけに聴いた気分になりました。新見さん[バス独唱]は初めて聴いたのですが好きな声質です。合唱はバランスよく、バスも吼えずに抑制のきいた訓練された歌唱ですね。テノールは健闘していました。女声陣は安定して余裕が感じられますね。合唱曲としては、ソリストがリピエーノに加わっていたとはいえ、第4番の冒頭合唱が迫力もあり充実していました。

日本語の点ですが、やはり歌詞が明瞭に聴き取れるということではありません。聴くほうが慣れていないということもあるかもしれません。そもそも、ドイツの合唱団が歌っていてもすべてが明瞭に聴き分けられるわけでもないことはよく経験します。(日本語の合唱曲とて同じことですが)バッハのようなポリフォニーの場合はなおさらです。そういうことからすれば母国語で歌うということは、聴く側ではなく歌う側にこそ意味があるのだと言えるのではないのでしょうか。

ドイツ語の場合には、何度も歌って良く知っている曲でも、頭で翻訳して歌っているため、よほど歌いこんで反射的に出てこない以上、自分の言葉ではないような気がするのは私だけではないと思います。ノンクリスチャンゆえに、知識、教養としての聖句や歌詞に過ぎないという一面もあるのでしょうか。

バッハの音楽の象徴性や修辞、ドイツ語のアクセント、ディクシオンとの関連が損なわれるとか、子音の響かないバッハはどうもねえ、などという意見もありますが、昨日の演奏を聴き、また、帰って大村先生の苦心の訳文を拝見した限りそういう問題ではなく、むしろ、日本語として脳や精神に直結している感情がどう共鳴し、それが演奏にどう表出されるか、ということのほうが大事なのかもしれないと感じさせられました。歌っている皆さんの表情に現れる共感、敬虔の念、感動、喜びというのがそれを証明しているように思います。

往々にして見られる客席でのしかつめらしい勿体ぶりや、プログラムの対訳をめぐる雑音がないのも精神衛生上喜ばしいことでした。

大村先生の偉業に改めて敬意を表しつつ、50年へ向けて益々のご健勝とご発展をお祈りいたします。

(公演の翌朝にお送りいただいたメールを、ご本人の了解を得て転載させていただきました)

第 104 回定期演奏会 アンケートより

演奏全般について：

- ・今回は比較的に小編成のように思えましたが、4 曲とも実に立派な演奏で、楽しませていただきました。第 4 番が期待どおり美しく、感激しました。第 52 番のシンフォニア、世俗の協奏曲を使うとは、バッハもあの曲が気に入っていたのでしょうか。私も子どものころから親しんでいる懐かしい曲でした。
- ・演奏の静動がよくでて心はずむ、また心が落ち着ける想いにふけりました。ソプラノ、アルト、バス、テノール、みな良い歌でした
- ・音がホールに響きわたり、とても素晴らしい演奏でした。自分もまた音楽にたずさわってみたいな、という気持ちになりました。
- ・たいへん満足した。Tenor、Bass solo に感動した。
- ・清纯な、統一性のある演奏に感銘を受けました。Bach の心に触れたようです。
- ・いつも楽しませていただいております。団員のみなさん、大村先生、独唱者、オーケストラの方、ありがとうございます。今後がんばってください。

日本語演奏について：

- ・違和感ほとんどなく、よく判り、きれいでした。
- ・魂をゆり動かす声に感激し、久しぶりに昔に帰れました。
- ・声が素晴らしく、またバッハの曲をこのような形で聞くことは始めてでしたので、新鮮な気持ちで楽しく聞くことができました。とても良かったです。
- ・感情がよく表現されると思う。
- ・言葉がよくわかるのが一番よいと思います。ドイツ語の鋭さが、日本語の丸みのある言葉と逢うのを感じました。

その他、本日の運営全般、会場について等：

- ・会場がとても明るい雰囲気、素敵な場所で、音楽（合唱）も心おだやかに聞けました。
- ・30 分前の開場は結構でございますが、建物内への入場を 1 時間前に早めて頂きたい。暑いなかでの、戸外路上での待機は疲れます。
- ・ホール入口の指示を明確にすべきです。開演時間を目前に大勢の方が通りで迷っていました。
- ・会場、音響がよいと思います。
- ・指揮台が大村先生には高いようで、もう一段途中に必要では。できたら、枠つきの指揮台はどうでしょうか、背面が心配です。

（ご協力、ありがとうございました）

第 104 回定期演奏会のライブ録音 CD ができました。1000 円 [全曲 1 枚] でお届けします。事務局までお申込みください。

東京バッハ合唱団

創立 48 周年記念懇親会ご案内

7 月 5 日(月) 午後 6:30 - 9:00, 目白聖公会

1962 年 7 月 1 日に発足した当合唱団の創立記念祝会は、毎年欠かさず、この日の前後に催され、講演・座談・演奏などをふくめて、日ごろ顔を合わせる機会の少ない団員と、コンサート聴衆の皆さま、団友、後援会員の方々の懇親・交流の場となってきました。

昨年この会は、8 月の第 5 回ヨーロッパ演奏旅行の壮行会も兼ねて、団員と後援会員を含むゲストの方々との、和気藹々のパーティとなりましたが、この席には、遠路ソウルからのお二人のお客（延世大学教会聖歌隊の指揮者キム・ヘオク教授、団員のチェ・スンユク女史）の突然の訪問というハプニングもあり、近い将来の、両国・両合唱団の交流公演の夢が語られました。

昨 2009-2010 シーズンは、演奏旅行の実施（フライブルク大聖堂、シュトゥットガルト聖パウロ教会等）、クリスマス・コンサート（12 月、世田谷中央教会）、荻窪音楽祭参加（本年 5 月、荻窪教会）、第 104 回定期演奏会（6 月、石橋メモリアルホール）と精力的な活動をつづけて参りました。この間、ヨーロッパ演奏旅行へのご支援をたまわった皆様への感謝をこめて、録音と写真、感想文等で構成した [記念 CD] と [記念文集] を制作し、お贈りすることもできました（残部若干あり）。

東京バッハ合唱団

創立 48 周年記念懇親会

< 日時 > 2010 年 7 月 5 日(月) 開始 PM 6:30 - 終了 9:00

< 会場 > 目白聖公会

（JR 山手線目白駅下車、目白通りを左へ徒歩 5 分 [学習院と逆] 通りの右側。新宿区下落合 3-19-4。次頁地図）

< 会費 > 1000 円（軽食と記念冊子を含む。当日受付にてお支払いください。要予約）

< お申込み・問い合わせ > 合唱団事務局

郵便はがき：〒156-0055 世田谷区船橋 5-17-21-101

TEL：03-3290-5731 FAX：03-3290-5732

Mail：bachchortokyo@aol.com

等でお申込みください。準備の都合がありますので、7 月 2 日までにお知らせいただければ幸いです。

恒例のバザーコーナーでは、当団発行『カンタータ 50 曲選』の全楽譜を 50%OFF で、同じく CD を各巻 500 円で（品切れ巻あり）、またヨーロッパ演奏旅行の [記念 CD ・文集] セットを 1000 円で、それぞれお頒けします。

その他、団員・後援会員の持ち寄った掘り出し物もご紹介します。献品大歓迎。ご協力よろしく願います。

今回は、当合唱団の「月報」紙上に連載いただいている、柳元宏史氏（元団員、岡山・蕃山町教会伝道師）の「全部おすすめ 50 曲選!!」が、ちょうど半分の 25 篇となりましたので、これまでの分を小冊子にまとめて、懇親会当日の発行とし、ご出席の皆様への記念品といたします。団員・団友・後援会員の皆様方にも、後日お贈りいたしますので、CD 選集『日本語演奏によるバッハ・カンタータ 50 曲選』鑑賞の手引きとして、座右でご活用いただきたいと思います。

会場は、前回同様、すでに 40 数年の長きにわたり、私どもが普段の練習場として使わせていただいている目白聖公会の集会場です。敷地内には練習の折々にお顔をお出しくださった、故・辻莊一先生（わが国バッハ学の泰斗、団創立当初の顧問）の思い出の残る礼拝堂があります（写真）。



初めての方も、ぜひお気軽にお出でください。私どもの演奏をお聞きくださり、団を愛してくださる方ならばどなたでもゲストとして大歓迎いたします。また、合唱団員のお仲間に加わったり、後援会にお入りいただく、良い機会となることも願っております。

この日は、カンタータ第 147 番のコラール「イエス わが喜び」（主よ、人の望みの喜びよ）を全員で歌って終わります。



「全部おすすめ 50 曲選!!」〔上〕

連載 その 1 ~ その 25

まえがき:

東京バッハ合唱団、創立 48 周年の記念に

柳元 宏史

創立 50 周年に向かって、いままさに《口短調ミサ曲》を皮切りに、大曲へチャレンジしようとしている東京バッハ合唱団に、私は 2006 年秋から約 2 年間、団員（バス）として所属しておりました。

ちょうど第 100 回記念の定期演奏会で、《マタイ受難曲》を演奏するとのことで、以前からある研究会で一緒にいた大村恵美子氏のお誘いを頂戴しました。はじめは、ろくに譜面も読めないのに大丈夫だろうかと思っていましたが、それでも歓迎してくださり、徐々に馴染んでいきました。練習を終え、帰り道の晴れ晴れとした気分は今でも忘れられない財産です。

在団中に、東京バッハ合唱団が出している『カンタータ 50 曲選』の CD と楽譜を購入したことがきっかけで、その感想を月報に書いてみては、というお申し出を受けました。最初は、全 20 巻の CD について、1 枚分ずつの感想を書いていけばよいのだらうと思っていましたが、月報編集担当の大村健二氏に、「1 枚ずつではなくて、1 曲ずつですよ」とニコニコしながら言われ、男子たるもの一度は引き受けたことを撤回はできまいと、ポツリポツリと書いて参りました。

この作業は、いつしか私にとりまして、折々に励ましを与えられ、自らの日々の生活に、さまざまに思いめぐらす貴重な時間となりました。日本語で演奏されているゆえに、ダイレクトにカンタータの歌詞が分かることが、なによりの魅力です。

この日本語の演奏にこだわって半世紀。まだまだ、この地上における東京バッハ合唱団の役割は大きいと思っています。聖書も、民衆の読めるその国の言葉に訳されたのはわずか 500 年前の出来事でした。そのルーツは宗教改革者ルターです。そしてバッハはルター派の教会のカントーラでした。ですから、バッハをその国の言語で味わうことは、大変意味のあることではないかと思えます。

『50 曲選』全 20 巻の CD は、これまでの東京バッハ合唱団の演奏の貴重な記録です。先月号の月報（6 月号）でようやく、半分の 25 曲分の感想を書くことができました。事務局から「この機会に冊子にしてみましょう。創立記念懇親会の引き出物にさせていただきます」というご提案を頂戴し、このたび、このように手づくりで刊行していただく運びとなりました。読み返すと、個人の記録のようで恥ずかしいのですが、創立 48 周年の記念としてお受け取りくださり、ご笑覧くだされば幸いです。

（団友、日本キリスト教団蕃山町教会伝道師）

創立 50 周年記念企画 (2011 年 ~ 2014 年) の概要が決まりました。ぜひご参加ください。

記念年の 2012 年をはさんで、前後 3 年間で記念企画の期間とします。

次回定演 (第 105 回) は、「カンタータ名曲集」とし、新規の入団者を迎えつつ、以下の記念企画に備えます。

企画第 1 弾は《口短調ミサ曲》の日本語演奏で、2011 年の秋に公演します。

中心となる 2012 年、2013 年の 2 シーズンは、《クリスマス・オラトリオ》の前半 3 曲と《マタイ受難曲》、後半 3 曲と《ヨハネ受難曲》を、それぞれ 1 年かけて練習し、ほぼ教会暦に沿った時季に上演します。

全国紙等の協力を仰いで、ひろく合唱参加者を募るとともに、過去半世紀間の OB・OG にも呼びかけます。

いつからでも、練習にご参加いただき、50 周年をともに楽しみ、お祝いいただければ幸いです (右段参照) 。

2010-2011 シーズン

第 105 回定期演奏会

- (2011 年 1 月 9 日 (日)、石橋メモリアルホール [予定])
- ・カンタータ第 111 番《み心は つねに成し遂げらる》
 - ・カンタータ第 68 番《み神はこの世を かく愛したまえり》
 - ・カンタータ第 147 番《心と 日々のわざもて》
 - ・モテット《頌めよ主を 世の民こそぞりて》

2011-2012 シーズン

第 106 回定期演奏会 - 創立 50 周年記念企画 1

- (2011 年 11 月予定)
- ・《口短調ミサ曲》(日本語演奏・本邦初演)

2012-2013 シーズン

第 107 回定期演奏会 - 創立 50 周年記念企画 2

- (2012 年 12 月予定)
- ・《クリスマス・オラトリオ》第 部、第 部、第 部
 - ・カンタータ第 71 番《主は わが君》

第 108 回定期演奏会 - 創立 50 周年記念企画 3

- (2013 年 3 月予定、参考：聖金曜日 3/29)
- ・《マタイ受難曲》

2013-2014 シーズン

第 109 回定期演奏会 - 創立 50 周年記念企画 4

- (2013 年 12 月予定)
- ・《クリスマス・オラトリオ》第 部、第 部、第 部
 - ・カンタータ第 76 番《主の栄光を 天は語り》

第 110 回定期演奏会 - 創立 50 周年記念企画 5

- (2014 年 3 月 / 4 月予定、参考：聖金曜日 4/18)
- ・《ヨハネ受難曲》

2010-2011 シーズン

練習スケジュール

- 練習参加・見学、随時可。楽譜の用意あり -

日時・会場	練習内容・〔行事予定〕
2010 年 6 月 6 日	第 104 回定期演奏会 (終了)
6 月 7 日 (月) より	< 前期練習 > 開始・・・並行練習
土曜日 : 15:30 17:30	BWV 111 (合唱、コラール。新規楽譜発行、7 月予定)、BWV 68 (合唱、コラール)、BWV 147 (合唱、コラール)、モテット BWV 230 (全曲合唱)
世田谷中央教会	(以上 4 曲、105 回定演の曲目)
月曜日 : 18:30 20:30	〔口短調ミサ曲〕 第 1 ステージ [3 月より継続中] (20. Confiteor ~ 終曲) (訳詞付きコピー譜にて譜読み。毎練習時の前半に上記 4 曲と並行して)
目白聖公会	
7 月 5 日 (月)	〔創立記念懇親会 (目白聖公会)〕
7 月 10 日 (土)	〔2010 年団員総会 (世田谷中央教会)〕
8 月 7 日 (土)	〔口短調ミサ曲〕 第 2 ステージ [8 月]
8 月 14 日 (土)	< 夏季集中練習 >
8 月 21 日 (土)	(月曜日・目白の練習、8 月中、夏休み)
8 月 28 日 (土)	(冒頭 1. Kyrie から終曲 27. Dona nobis までの全合唱曲を、4 日に分けて集中練習。各 4 時間)
世田谷中央教会	
13:30 17:30	
9 月 4 日 (土) より	< 後期練習 > 開始・・・並行練習
	BWV 111、BWV 68、BWV 147、BWV 230
	〔口短調ミサ曲〕 第 3 ステージ [9 月・10 月・11 月] (冒頭 1. Kyrie から終曲 27. Dona nobis までの全合唱曲を総練習)
12 月	クリスマス特別演奏会 (計画中)
	(105 定演曲目より抜粋)
2011 年 1 月 9 日 (日)	第 105 回定期演奏会
石橋 M.H. [予]	BWV 111、BWV 68、BWV 147、BWV 230
2011-2012	《口短調ミサ曲》 第 4 ステージ [1 月 ~ 10 月] (仕上げ)
5 月荻窪教会 [予]	荻窪音楽祭 [予] (口短調ミサ曲) 後半
11 月	記念企画 1 (口短調ミサ曲)
2012-2013	《オラトリオ》前半 + 《マタイ受難曲》並行練習
2012 年 12 月	記念企画 2 (オラトリオ) / /
2013 年 3 月	記念企画 3 (マタイ受難曲)
2013-2014	《オラトリオ》後半 + 《ヨハネ受難曲》並行練習
2013 年 12 月	記念企画 4 (オラトリオ) / /
2014 年 3 月 (/ 4 月)	記念企画 5 (ヨハネ受難曲)